

農繁期 レポート

令和2年 7月号

バードライフファーム

オーナー	(一般)バードライフ・インターナショナル東京
水田面積	25.0アール
保証量	玄米1125kg
形態品種	特別栽培コシヒカリ



生産者 米風土鳥取の皆さん

6月の梅雨入り時はなかなか雨が降らないと思っていたところ、7月に入り例年より長くなっている梅雨でなかなか晴れませんでした。7月20日以降はちょうど幼穂形成時期に当たり、今年は冷害による品質低下と収量ダウンが心配される年になっています。それでも間もなく暑い夏がやってきますので農家としてはやれることは残り少ないですがあと2か月結果がどう出るのか待つばかりです。

7月の作業内容と稲の成長

1. 中干し

稲は田植え後からどんどん生長して枝分かれしていきますが、その成長を強制的に止める作業を中干しと言います。土壌へ酸素を供給し、根を健全に保つ役割や土の中の有害ガスを抜く目的などで実施します。

2. 追肥

田植え前に土に混ぜ込んだ肥料を「元肥」といい、穂が出る直前に入れる肥料を「追肥」と言います。量が少なければ収量が減り、多すぎると稲が伸びすぎて倒伏し品質が落ちます。タイミングも量も非常に重要な判断が求められます。

3. 電気柵設置

日南町でも鳥獣被害が多発する地区とそうでない地区があります。多発する地区は毎年早めに電気柵を設置し、田んぼへの侵入を防ぎます。特に猪は稲を食べる訳ではなく、田んぼでゴロゴロ遊ぶ目的で来ていることが多いです。

お米の病気(イモチ病)

菌の寄生が原因で生育期間や場所問わず発生し、葉を枯らして大きな被害をもたらすのがイモチ病。低温と多雨による日照不足の年は発生しやすいため注意が必要です。苗作りの種子消毒と窒素肥料の適正量を守ることで予防できます。

